

# 北辰

TOKYO



岐阜県立多治見北高等学校同窓会  
東京支部会報 第31号  
2017年9月23日

## 世代を超えて面でつながろう！ 多治見北高同窓会

多治見北高等学校同窓会東京支部 会長 羅本 礼二（15 回生）

今年の関東は梅雨時期に太陽が照りつける晴天の日が多く、猛暑の到来を予感させましたが、梅雨明け後の8月に入ってから記録的な雨天が続くという不順な天候の夏になりました。

そのような毎日でも、数年前まで日本最高気温記録ホルダーだった多治見の北高を母校とする皆様におかれましては元気にお過ごしのこと推察いたします。

さて、28回目となる今年の本多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会は11月18日（土）にJR山手線や地下鉄南北線の駒込駅から徒歩数分の女子栄養大学にて開催を予定しています。今年の幹事は下一桁に8のつく回生になります。恒例のフォーラムは18回生の丹羽和賀美さん（和みのクリニック院長）の講演で「診察室から見える現代の心模様」というタイトルです。皆さんの日頃のお悩みを解決できるヒントになる内容になるのではないかと思います。

また、多治見市は東濃地区の各市町村とも力を合わせて地域の活性化に意欲的に取り組んでいます。その元気な近況について、短い時間ではありますが11回生の古川雅典・多治見市長にお話を伺う予定です。さらに、懇親会では例

年、会場のあちこちで懐かしい昔話や地元のトピックスなど、尽きない話題で盛り上がりますが、今年は女子栄養大学ならではの美味しい料理や自慢のデザートがより一層楽しい時間を演出してくれます。ぜひ、昨年に続いて本年も多くの皆様のご参加をお待ちしています。



私たち東京同窓会（多北高同窓会東京支部）は1990年に設立され、会員数約千人で年に一度の総会・懇親会の開催（11月）と会報の発行を行っています。さらに、年に数回のゴルフコンペを開催しています。また、多治見の北高同窓会本部や関西支部のみならず、東濃地区の他校同窓会とも定期的に交流を行い、地元の動向や共通話題について情報交換を行っています。

同期会は同じ年に北高に通った者同士の横の繋がりを保ちますが、世代を越えての同窓会は先輩や後輩と縦にも繋がりが、縦糸と横糸が繋がることによって、大きな布（面）の広がりを作りだします。どうぞ皆さま、高校時代の若い心で多北高同窓会に参加して、心のよりどころとしての広がりにも包まれてください。微力ながら皆様のご支援、ご協力を賜りながら、多治見北高同窓会東京支部を盛り上げていく所存ですので、あらためましてよろしく願いいたします。



昨年11月の東京支部懇親会の様子（校歌斉唱）

# 「成長」

多治見北高等学校 校長 桜井 正之

多治見北高等学校同窓会同窓生の皆様には、ますますご活躍のことと心からお慶び申し上げます。日頃は本校の教育に対して格別なご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。本校は昭和33年に開校し今年で60周年目という節目を迎えます。近隣の学校と比べると年数は浅いのですが、先輩方の活躍により伝統ある学校として信頼を得られるようになりました。

さて、私が多治見北高校に赴任して嬉しい事柄として、多くの出会いがありました。昭和59年より11年間本校に勤めていたことが縁で、私が多治見北高校に校長として赴任したことを知り、当時の教え子たちが表敬訪問をしてくれます。1年生の時に担任したクラスの仲間たちであったり、卒業時に担任したクラスの仲良しグループであったり、担当した部活動の仲間たちであったり様々です。中には、海外に在住（14年）の教え子がフェイスブックで私のこと知り、里帰りの折に学校へ寄ってくれました。26年ぶりに出会った生徒は自分の進むべき道をしっかりと見据え、着実に成長した姿を見せてくれ大変嬉しく思いました。

さらに昨年、私にとって、新たな出会いがありました。昭和63年に多治見北高校創立30周年を記念して石像「無限」が校庭に建立されました。作者は同窓生の岩田実氏です。その岩田氏とこの多治見北同窓会東京支部総会で出会うことができました。岩田氏は、たくましい人間力をもった人材の育成を多治見北からと熱く語られました。また、同席されていた奥様はなんと私の高校時代の恩師であることも判明し、さらに話が弾みました。私が多治見北高校へ赴任

しなければ出会えなかった奇跡があったように思っています。

7月29日・30日と東日本大震災復興支援ツアーに16名の生徒と共に参加させていただきました。今年も、同窓生の方々に力強いご協力をいただき充実した研修の機会となりました。現地での研修の中で被害に遭われた方々の生の声を聴かせていただき、その当時の恐怖や過酷な状況が切実に伝わってきました。参加した生徒たちも研修が進むにつれて震災当時の凄惨な状況を受け止め、復興が徐々に進行している中で自分たちに何ができるのか、どう行動したら良いのかを真剣に考えてくれました。また、釜石では釜石高校生徒会の皆さんとの交流も準備していただき、同年代の子どもたちがどのように震災を乗り越えたのか話し合えたことにとっても感謝しております。このツアーを綿密に作り上げられた伊藤同窓会長およびご尽力いただいた同窓会同窓生の皆様に、この紙面をおかりしましてあらためてお礼申し上げます。

最後になりますが、同窓生の皆様が積み上げられた伝統を守り、校訓「自主・自律・自学」の精神を引き継ぎながら、人間性豊かな人材および社会に貢献できる人材の育成に努めるよう、教職員一同一丸となって努力する所存ですので、今後も格別なご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、私にとっても、この多治見北高校に努めたことで生徒の成長を見届けることができ、さらに自分もこの学校で数々の出会いに恵まれ成長できたことに感謝します。



釜石高校の生徒たちとの交流セッション。お互いに小学生だった同世代の彼らとの交流は特別な体験でした。



三陸鉄道南リアス線「こいしはま」駅にて。通勤通学の利用者が減り、観光客にぜひ来てほしいと頑張っています。

# ある多治見北高校 1 回生の回顧

鈴木 満 (1 回生・桐蔭横浜大学客員教授・弁護士)



わが母校の多治見北高校が 2018 年 4 月で「創立 60 周年」を迎えるという。われ等 1958 年入学の「1 回生 (240 余名)」は、(15 歳で入学しているから)この時点で全員が満 75 歳の「後期高齢者」の仲間入りを果たしていることになる。これも宜べなるかな。

この機会に、北高創設時の「思い出」を紹介することにする。

## 【1958 年当時の多治見の街】

私の出身は可児郡可児町羽崎 (現可児市羽崎)。自転車自宅から国鉄太多線広見駅 (現 J R 可児駅) まで行き、気動車に乗って多治見駅へ、そして、徒歩で北高まで行くというのが私の登校手段であった。

当時も多治見は「陶器の街」。未舗装の道路には陶器のカケラが散らばり、陶器を焼くための燃料は可児郡御嵩町近辺で採掘される「亜炭」であったため、陶器工場からモクモクと排出される黒煙で、空はうす暗く曇り、電線に停まっている雀は黒ずんでいるように見えた。また、多治見市街の真ん中を横切る「土岐川」も、おなじ陶器の産地である瑞浪市や土岐市の工場排水をも集めて濃く白濁し、とても魚が住める環境にはなかった。当時、「陶器産業の景気の良さは土岐川の白濁度を見れば分かる」と言われていた。その意味では 1960 年前後の東濃地方の陶器産業の景気は極めて良かったと言える。

ところが、私が 1973 年ごろ用事で多治見の街を訪れた際、その顕著な環境変化に大いに驚かされた。道路は完全舗装されて陶器のカケラは見られず、陶器工場の燃料も亜炭からエルピーガスに転換されたためか「黒煙」や「黒ずんだ雀」も見られず、さらに、1971 年施行の水質汚染防止法によって陶器工場からの排水に対する規制が大幅に強化された結果、土岐川の水がすっかり浄化され鮎などが泳げるようになるなど、「多治見の街」は大きく変貌していた。

## 【北高入学の動機】

実は、私は「多治見高校」への入学を希望していた。ところが、岐阜県当局の方針で、岐阜高校、大垣北高校、斐太高校という在来 3 校のほか、多治見北高校と岐山高校の新設 2 校を加えた県内 5 校が「進学校」に位置づけられることになり、これに伴って「多治見高校」は 1958 年度から「多治見女子高校」と名称を変え男子禁制となった。かくして私たち「多治見高校志望者」は自動的に「多治見北高校志望者」へとシフトさせられることになった。

## 【当時の高校入学試験科目】

1958 年当時の高校入試科目・配点は、国語・算数・社会・理科の主要 3 科目が 50 点満点、英語などその他の科目は 20 点満点であったと記憶する。私は中部中学校時代、ある英語の先生が好きになれず、そのために英語を「苦手科目」とするようになっていた。「このことが私のその後の人生を大きく制約した」と今は悔やんでいるが、当時は、「苦手な英語の配点が主要科目の半分以下であること」をむしろ喜んでいた。

## 【給付・貸与混合型奨学金制度】

北高に入学して間もなく日本育英会 (現日本学生支援機構) の「特別奨学金制度」が創設された。この制度は、以前から存在する月額 1000 円の貸与型奨学金制度とは別もので、月額 3000 円を支給するが、うち 1000 円は返済を要する「貸与型奨学金」、残り 2000 円は返済を要しない「給付型奨学金」であった。保護家庭の収入が一定金額以下でかつ中学時代の成績が一定点以上という条件が設けられていたと記憶する。わが家は専業農家で貧しかったからこの条件を満たし晴れてこの「給付・貸与混合型奨学金制度」の適用対象者となった。高校の授業料が「月額 700 円」・大学卒の初任給が「月額 1 万円前後」の時代の「月額 3000 円」であったから経済的に大いに助けられた。貧乏家庭の長男が大学に進学できたのもこの奨学金があったからこそで、大学入学時の納付金約 4 万円はこの奨学金を積み立てていたお金で支払うことができた。

私はこの経験から「給付型奨学金制度」を一層拡充強化する必要性を痛感し、そのために各方面に働きかけているが、個人的にも、信託銀行の公益信託の制度を活用して高校生向けの「給付型奨学金制度」を創設しようと準備を進めているところである。

## 【学校新聞「虎溪陵」の創刊】

われ等 1 回生が入学した北高には、教師陣は用意されていたものの、校舎は陶都中学校舎の借り物、校歌はもちろんのこと部活の根柢となる「クラブ」も何一つ存在しなかった。このため、われ等 1 回生は自分たちでクラブを創設し

なければならなかった。私は、新聞記者を志そうと思ったこともあって「新聞部」の創設に携わることにした。

学校新聞の発行を主な任務とする「新聞部」は、まず「紙名」をどうするかを議論した。いろいろな意見が出たが、当校は虎渓山近くに所在することから「虎渓陵」という紙名にすることになった。学校新聞の発行は、取材→編集→印刷という手順を踏む。取材と編集は部員が担当するが、印刷は長瀬にある印刷屋さんを外注した。発行日が近づくと、われわれ新聞部員は印刷所に出向き校正作業をした。当時は「活版印刷」の時代であるから、職人さんが鉛の文字版を一字一字拾っていく植字作業を眺めながら刷り上がるのを待った。刷り終わった「虎渓陵」を眺めるときが新聞部員の「最大の喜びのとき」であり、それが懐かしい。

その「虎渓陵」の名前が消えて久しいという。寂しい気持ちになることもある。

### 【北高で学んで良かったこと】

北高の校訓「自主・自律・自学」がいつ頃出来たのかは

不確かであるが、「このことを身を以って経験をした」のはわれ等1回生であることだけは確かである。

先輩が居ないから「自主・自律」をせざるを得なかったし、急に集められた先生方も教育方針を確立するまでには至らなかったからわれわれが「自学」せざるを得なかった(当時、大学受験生向けの補習授業等は皆無に近かったと記憶している)。

今、自分の人生を振り返って見ると、国家公務員としておよそ30年間、その後、研究者としておよそ20年間、都合50年間、常に書物等で新しい知識を身に付ける努力をし(自学)、誰にも頼らず自分で新しい課題を見つける努力をし(自主・自律)、「世の中に役立つ仕事をしよう」と心掛けてきた。

このような「細やかな自負」ができるのも「自主・自律・自学」を校訓とする多治見北高で学んだお陰であると、大いに感謝しているところである。

## 彫刻家岩田実(7回生)制作の「友情」の像について

岩田 敬子(7回生)



彫刻家岩田実が中津川市(蛭川)産の白御影石を使って制作した「友情」の像が、この3月に、JR東逗子駅ロータリー中央に設置され、同地のシンボルとして、大空の下で、地元の人々を活気づけている。

この像は、2003年秋から2016年秋までJR鎌倉駅に設置されていたもので、その設置に至る経緯は、岩田実のホームページ中の「経験と思想」(2003年秋に北高の全校生徒を対象にした講演会で行った講演内容の記録)等に詳しく記されているし、北高の同窓会報「北辰」第5号(2003年11月15日発行)にも、記事が掲載された。

(3) 第5号



多治見北高



### 鎌倉駅を飾る 少年像

七回生 岩田敬子

十月十日、JR鎌倉駅の東口で、七回生の彫刻家岩田実の制作した少年像「友情」(白御影石・台座込み約二メートル)の除幕式が行われました。かねて「鎌倉駅に少年像を設置する会」(代表岩田敬子)が設置のための賛助金を募っていましたが、知る人ぞ知るの式典でしたが、遠く大阪

からやって来た友人代表の大嶽節洋さん(七)ご夫妻をはじめ、埼玉からの今井幸代さん(一)、可児和子さん(七)、東京からの橘之子さん(四)、川崎からの後藤桂さん(四)ご夫妻、横須賀の倉谷和子さん(一)、平塚の若尾泰英さん(八)、横浜の新井裕子さん(七)と多くの同窓生の参加もあり、平日だったので、除幕式には百余名、直後のパーティにも五十名ほどの出席者があって盛会でした。

写真は、当日最後まで残って下さった同窓の皆さんと、十二日の早朝、まだ人通りのないときに撮った少年像です。この少年像設置には、鎌倉の新しい文化の創造の一端となればという彫刻家岩田実の深い思いと、いろいろな形でご協力いただいた多くの方々、とりわけ、北高同窓生の熱い



「友情」が込められております。どうぞ皆さん、鎌倉にお越しください。同窓の友が制作し、同窓の友の多くが協力して設置できた少年像、悠久な美と安らぎが感じられる「友情」をご覧になりに。なお「鎌倉駅に少年像を設置する会」では、少年像の維持管理のため、引続き賛助金を募っていますので、今後とも宜しくお願い致します。賛助金は、郵便振替 00210-3-38639 鎌倉駅に少年像を設置する会まで。詳細のお問い合わせは、TEL0467-25-5329(岩田)まで。HPは「岩田実彫刻の世界」<http://www.kanakuane.jp/~iwata/>

その「友情」の像が、鎌倉駅のリニューアル工事に伴って、東逗子駅に移設されたのである。鎌倉から東逗子に移設されるまでの経緯は、岩田実後援会（岩田実の芸術活動を応援する会）の事務局が発行している「アトリエだより」No.41に詳しく書かれているが、JRの担当者から昨春初めてご相談を頂いてから実際に移設が遂行されるまでに、ちょうど1年かかった。

下は、その除幕式の翌日、3月20日の朝日新聞に掲載された記事で、デジタル版ではもう少し詳しく書かれている。岩田実のホームページ <http://iwata.art.coccan.jp/> TOPでも、このことをお伝えしている。

最下段の写真は、除幕式で除幕の紐を引いたり、挨拶したりした人々で、私たちのほか、同窓生で後援会会長の新井裕子さんや石橋正文さん（ともに7回生）、横須賀在住の彫刻家ご夫妻や逗子市商工会会長、さらに地元の子供たち14人等が含まれている。また、前頁冒頭の写真は、5月に撮影した「友情」の像である。

同窓生の皆さん、機会があったら、鎌倉市内に点在している岩田実の作品と共に、移設されたこの「友情」の像もご覧になってください。北高の「無限」の像（黒御影石、1988年設置）等も、ぜひ。

## 鎌倉の「友情」の像 東逗子駅で再出発

約13年間にわたりJR鎌倉駅東口にあり、待ち合わせ場所などとして市民や観光客に親しまれていた少年像「友情」が東逗子駅（逗子市）前に移転し、19日、除幕式があった。作者の彫刻家・岩田実さん（68）はじめ関係者約100人が出席、新たな出発を祝った。「友情」は2人の少年が肩を組む、高さ2・3メートルの白御影石の彫刻。少年の表玄関「東口に建てられ、その後駅ビル内に設置されていたが、駅ビル改修にあたり昨年撤去され、関係者の尽力で東逗子駅で再出発することになった。

（菅尾保）

移設された「友情」と作者の岩田実さん（左）、妻の敬子さん（右）と逗子市沼間




# 高木久美さんを悼む

長崎 恵美 (18 回生)

突然の訃報でした。その3日前に多治見中学の同窓会で、楽しく過ごし、参加できなかった幼なじみのところへ1週間後一緒に行く約束までしていたのですから…。思えば、昨年5月同窓会を来年何月にやろうかと幹事で集まって相談した時、「2月にやろう！」と言い出したのは久美さんでした。「川地家でどう。2月18日の仏滅なら空いてるはずだから私が予約する！」と。願い叶わず他の場所で行いましたが、同窓会は楽しかったと家族に話したそうです。通夜式で闘病生活1年8ヶ月、この時余命数ヶ月と病院で言われていたと聞きました。

子どもの頃から心臓が弱く、プールで倒れたこともあったけれど、明るく誰にでも気さくに話しかける性格で、教師生活もペースメーカーを入れながら、北高で学年主任、多治見高校教頭、八百津高校校長と最後まで登り続けた人でした。「自分が教師を続けることができたのは、両親に2人の子どもの面倒をみてもらえたから…女性が働く環境は過酷な日本はまだなんだ。」とか、学年主任になった時は、「周りの女性教師から応援されるし、後に続く人のためにも失敗できんのやわ…。」と言って今の社会の矛盾を問い続けながら頑張っていたことを思い出します。それでも年に

数回食事会で集まると必ず生ビールを「うまい！」と言って飲み干し、旅行や料理の話などをよくしてくれました。

去る3月20日には、川地家で偲ぶ会を北高同窓生有志で行い、松田治道先生、馬場秀彰先生も参加して下り、それぞれの思い出を語り合いました。高校時代、男女の分け隔てなく話しかけてくれる貴重な存在であったこと。教師になりたての頃、勉学に励みたい子の力になりたい。そのために進路指導のエキスパートになって進学校赴任を希望していたこと。音楽部に所属し、コーラスの楽しさを知り近年もコーラスをやっていたこと等、知らなかった過去も再現され、久美さんのことがより深く心に刻まれたように思えます。



## 第28回 多治見北高同窓会総会・懇親会(11月18日開催)での「フォーラム」の講師 丹羽和賀美さんのプロフィール

精神科医 和みのクリニック(横浜市青葉区あざみ野、精神科・心療内科)院長  
精神科専門医、精神保健指定医、メンタルヘルス運動指導士、エッセイスト

多治見市出身、多治見市養生小学校・多治見中学校卒業、岐阜県立多治見北高等学校18回生  
名古屋市立大学医学部卒業後、神経内科を主に国立静岡病院レジデントとして研修  
名古屋市立大学病院精神医学教室、資生会八事病院(名古屋市)、医療法人社団リラ溝口病院(静岡市、思春期外来診療部長)等での勤務を経て2002年4月自宅で「和みのクリニック」開設に至る。

厚生省神経ペプチド班研究、文部省神経難病研究、文部省研究委託事業スクールカウンセラー(静岡県)、静岡県教育改革審議委員・学校評議員、静岡県警察学校講師、横浜市青葉区嘱託医等に従事。  
少年犯罪を含む司法精神鑑定や成年後見制度鑑定に多数従事、教育や職場・女性のストレスに関する講演や新聞・テレビ取材多数。

2006年9月 エッセイ本「徒然花」(新風舎)を出版し、クリニックのHPにて「続・徒然花」の執筆を続けている。

専門は精神病理学(臨床哲学、現象学、主にドイツ・フランス学派)で、青年期精神医学、スポーツ精神医学、学校メンタルヘルス、社会精神医学、女性・母子の精神保健と多岐に渡る。学会発表・論文も多数。

最近では、カウンセリングとヨガに自律訓練法を取り入れた治療で脱薬物療法に取り組み効果を上げている。



丹羽和賀美さん

\*趣味は水泳(マスターズスイミングで年間優秀選手、オープンウォーター)、ダイビング、フィンスイミング(世界大会日本代表)、ゴルフ、旅行、絵画、園芸(主に薔薇)等

HP : <http://www.nagominoclinic.com>

# 東京支部だより 第27回総会・懇親会 大いに盛り上がる

昨年11月6日（日）、第27回東京支部総会・懇親会をIVY HALL（青山学院大学）において開催いたしました。

総会では第26期事業報告及び決算報告、第27期事業計画及び予算案について審議・承認されました。恒例のフォー

ラムでは慶応大・経営学研究科教授の太田康広氏（27回生）が、専門である会計学を駆使して、「平成になってから放映された仮面ライダーのうち誰が最も稼いだか」を独自の視点で解説して戴きました。

懇親会では羅本会長の挨拶、来賓の方々（桜井正之校長先生、伊藤信子先生、松田嘉久先生、伊藤恒一同窓会会長、平木えり子関西支部代理、古川雅典多治見市長、伊藤和徳恵那高（東京城陵会）会長、小栗清吾瑞浪高首都圏同窓会会長他）の紹介、そして乾杯の発生に始まり、幹事回生の名司会（今井志保子さん、近藤サトさん、加藤亜希子さん）の絶妙な進行により、参加者110名 大いに盛り上がりま



フォーラムの様子



懇親会の様子



幹事回生の皆さんを中心に



## 第28回 多治見北高同窓会東京支部総会・懇親会のご案内

会員の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、平素より支部運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

今年の東京支部同窓会は、豊島区駒込の「女子栄養大学・駒込キャンパス」で実施いたします。

総会・懇親会は、「異業種・異世代交流の場」として、多くの会員の皆さんが参加され、旧交を温めていただく素晴らしい出会いの場としてどうぞ積極的に活用してください。

ご多用中のこととは存じますがお知り合いの同窓生もお誘い合わせのうえ、是非ご出席くださいますようご案内申し上げます。

多治見北高同窓会東京支部総会実行委員会（下一桁8の回生）

### 記

日時：平成29年11月18日（土曜日）午後2時～6時00分（1時30分開場）

会場：「女子栄養大学・駒込キャンパス」

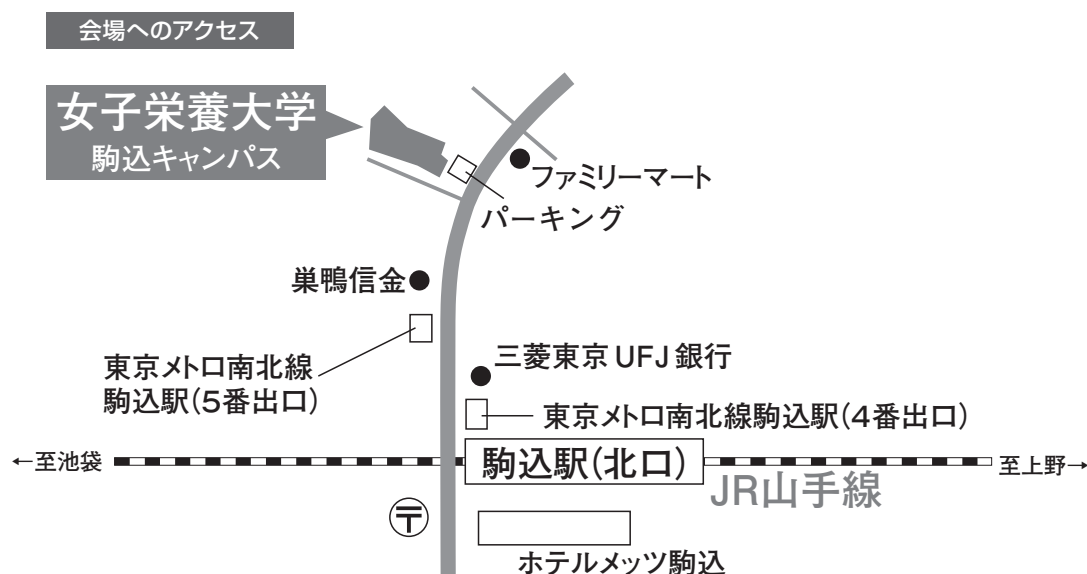
所在地：豊島区駒込 3-24-3 JR 山手線・東京メトロ南北線 駒込駅より徒歩3分

### <プログラム>

- ・総 会：午後2時00分～2時30分
- ・フォーラム：午後2時30分～3時45分  
講師 丹羽和賀美氏（18回生）  
演題：「診察室から見える現代の心模様（私が精神科医になって学んだこと）」  
（講師のプロフィールを6ページ下段に掲載しています。）
- ・懇 親 会：午後4時00分～6時00分
- ・懇 親 会 費：一般 6,000 円、平成18年以降卒業生（46回生以降） 3,000 円、学生 1,000 円  
同伴家族 3,000 円（但し小学生以下無料）
- ・年 会 費：一般 2,000 円、学生 0 円

出欠のお返事は、10月28日までに届きますようお願いいたします。

今後の名簿作成のため、ご出席いただけない場合でも必要事項を【返信用はがき】にご記入の上ご投函ください。



編集委員 鈴木清二（13回生）

<ホームページアドレス> <http://www.tajimikita-tyo.com/> <メールアドレス> [info\\_hokushin@tajimikita-tyo.com](mailto:info_hokushin@tajimikita-tyo.com)